キヤノンカメラ株式会社

本社・工場　東京・大田区下丸子町　TEL 738 大代表 2111

営業所　東京・中央区銀座7-1(ヤマトビル3階) TEL 571－2141～5

サービスステーション

東京・中央区銀座6－2（松坂屋前）電話 571－3767・4461

大阪・北区梅田2（第一生命ビル2階）電話 361－1261・1701

名古屋・中村区広小路西通2（大商ビル6階）電話 55－2811

広島・幟町 26　電話 2－4615・4616

福岡・天神町12－1（福岡ビル9階）電話 76－2818・1061

札幌・北三条西4－1（第一生命ビル4階）電話 3－5788

PUB. NO.0093E　0363N20　PRINTED IN JAPAN

Canon

MODEL 7

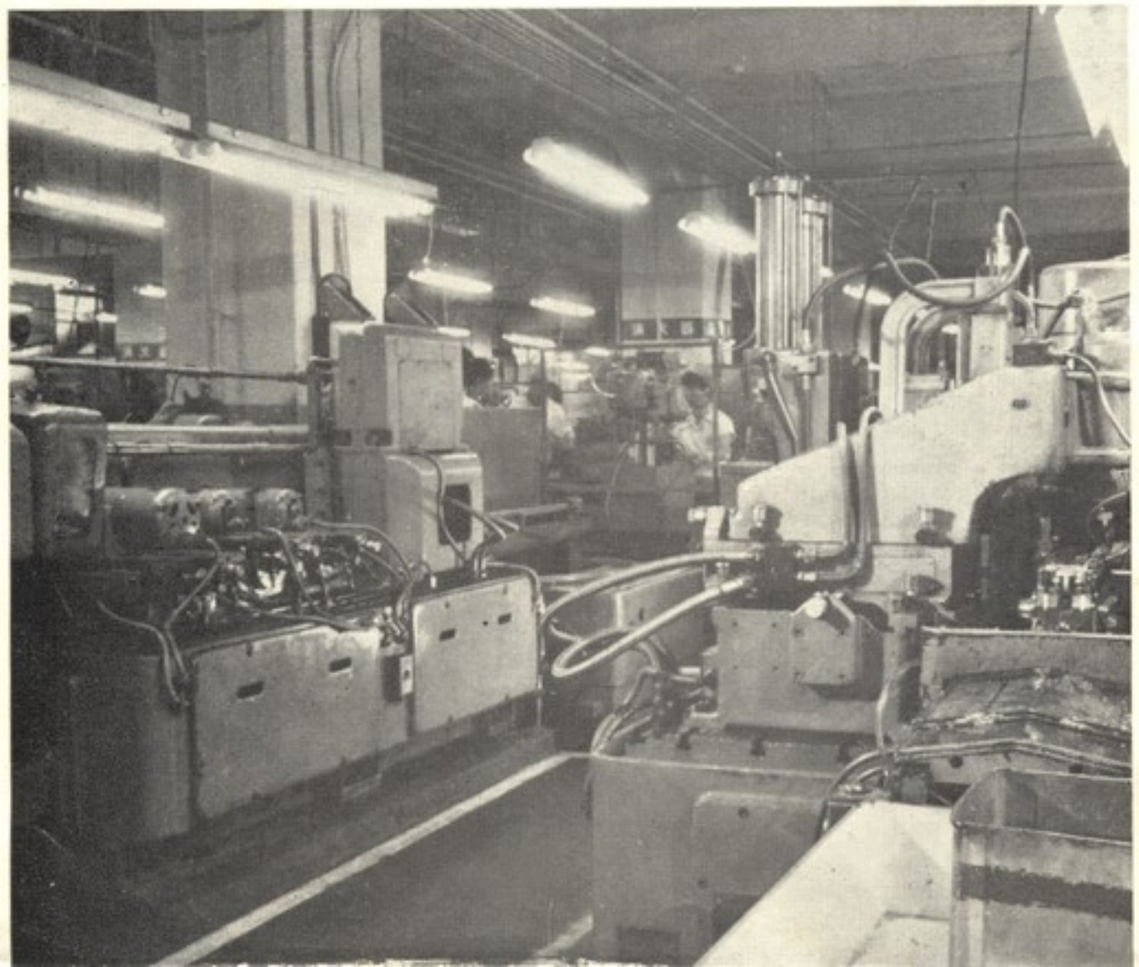
このたびはキヤノン7型をお選びくださいましてまことにありがとうございました.

キヤノンは，世界のカメラとして親しまれ，我が国写真界発展の道をひらくと同時に，各種キヤノン製品を通じて皆様の「楽しい生活」の実現にたゆまぬ努力を続けてまいりました.

つねに新しい時代の要求とセンスに反映した製品企画にもとづいて，よりすぐれたキヤノンをお届けすることに心がけ，多年の経験に加えて独自の理論と生産技術を総合した，最も近代的なかつ合理的な生産方式で材料から完成品まで一貫作業によって製造が行われております．したがって品質性能はもちろんデザイン，価格面のすべてにわたって必ずご愛用者皆様のご満足を頂けるものと信じております.

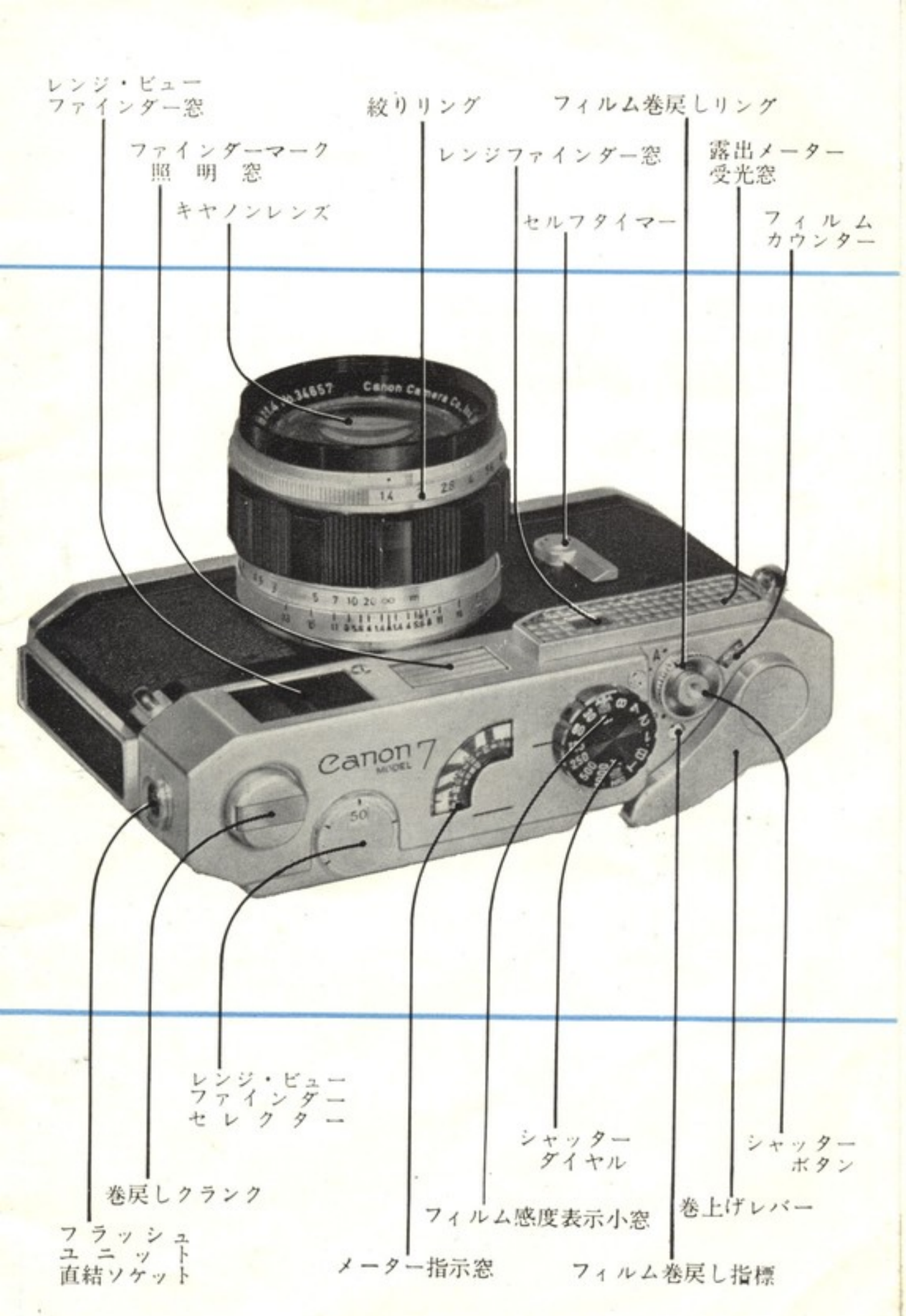
ご家庭に，ご研究に，ご旅行ハイキングにキヤノン製品を十二分にご利用くださることを念願しております.

機械工場の一部



目　次

● フィルムとシャッターの巻上げ…… 2
● シャッターと絞り…… 4
● 露出メーターの使い方…… 6
● キヤノンの構え方……11
● ピントの調節……12
● フィルムの装塡……14
● フィルムの巻戻し……17
● フラッシュ同調……18
● セルフタイマー……19
● レンズの特別な取扱い……20
● キヤノン専用マガジンとフィルムの入れ方……26
● 二重露出……28
● カメラの保存手入れ……29



キヤノン7型の主要性能

型式： 距離計連動 35mm フォーカル プレーン カメラ

連動露出計内蔵： シャッター ダイヤルに連動する追針式・ASA 100 のフィルムに対して LV6～13, LV12～19 の高低 2 段切換

シャッター： 1/1000～1 秒の倍数系列および B・T・X の等間隔目盛一軸シャッターダイヤル・金属幕使用のフォーカルプレーン シャッター

ファインダー： ブライト フレーム 変換式の ユニバーサル マーク ファインダー・35mm用, 50mm用, 85mm および 100mm用, 135mm用 4 段階. パララックス連動矯正式・倍率 0.8 倍

レンズ マウント： キヤノン 標準 スクリュー マウント および 3 爪の バヨネット マウント をもつダブルマウント 形式・バヨネット マウント は新設計 50mm F0.95 レンズおよびミラーボックス 2 型装着用

交換レンズ： 25mm 超広角から 1000mm 超望遠まで各種

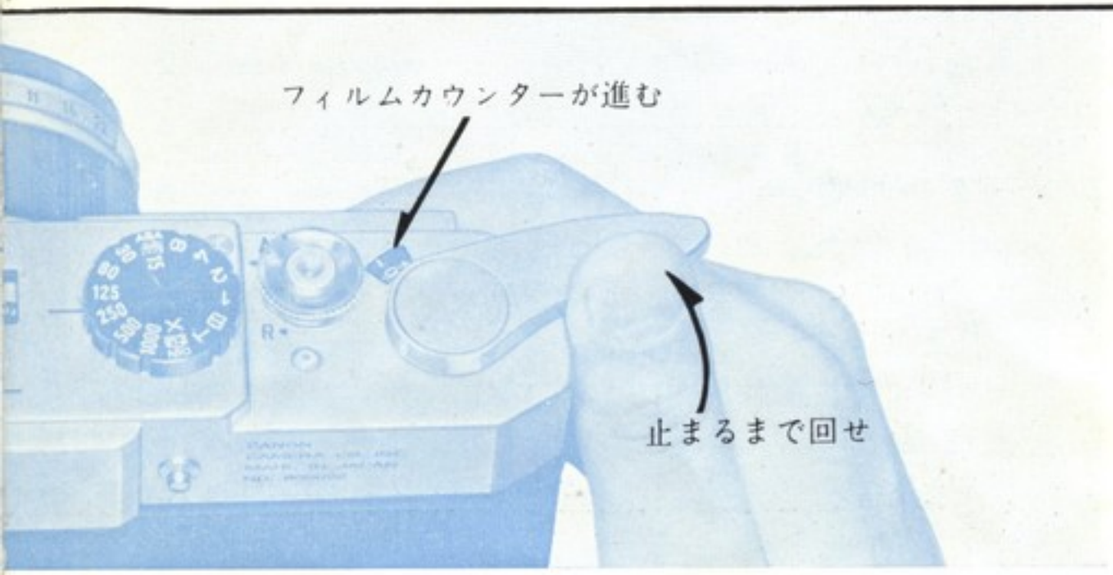
シンクロ フラッシュ： フラッシュ ユニット 直結ソケットおよび自動タイムラグ調節

セルフタイマー： シャッター ボタン で始動する内蔵セルフタイマー

その他： 小刻み可能巻上げレバー／迅速巻戻しクランク／自動復元式フィルムカウンター／マガジン・パトローネ両用など……

安全装置： シャッター ボタン の安全 ロックはじめフィルム巻上げ, シンクロ フラッシュ その他各所に設けたフールプルーフ装置

フィルムとシャッターの巻上げ



巻上げレバーを止まるまで回すとフィルムが送られてシャッターがセットされます．同時にフィルムカウンターも1目盛進みます．

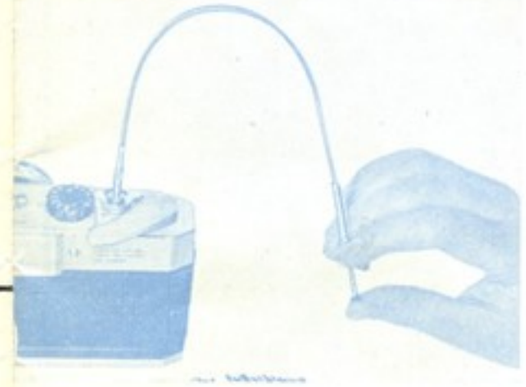
●巻戻しリングの指標がAの位置になければなりません．

●巻上げは，レバーを小刻みに動かしてもできます．

●巻上げレバーを使わないときは畳みこみ位置に戻しておきましょう．

●フィルム装塡後第1回目の巻上げのとき，レバーが空送りすることがありますから念のためもう一度止まるまで動かしてください．

シャッターボタンを押すとシャッターが作用したのち，再び巻上げができる状態になります．



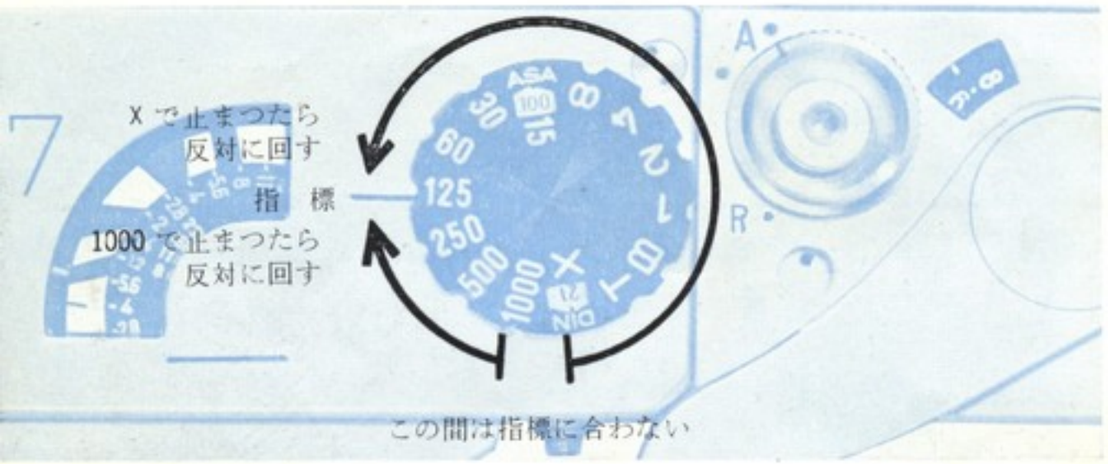
●シャッターボタンにはケーブルレリーズがつきます．

●シャッターボタンには安全装置がありますから巻上げ不完全では動きません．

●また巻上げたのち巻戻しリングの指標を赤点に合わせると，シャッターがロックされて動きません．巻上げたままで携帯するときやケーブルレリーズの取付けに利用します．

シャッターと絞り

シャッターと絞りは露出の調節をするもので連動露出メーターを使用すれば簡単にセットできますが，その前にシャッターダイヤルと絞りの説明をしておきます．



シャッターダイヤルを回して，必要の目盛を指標に合わせればスピード調節ができます．

● 1000～X 目盛の間は回転できません．

● 目盛は $^1/_{1000}$秒．$^1/_8$ 秒などという場合の分母です．

● Bはバルブ露出でシャッターボタンを押している間シャッターがひらいていますから1秒以上の長時間露出に用いられます．

● Tはタイム露出で極長時間露出用です．シャッターボタンを押すとシャッターがひらいたままになり，シャッターダイヤルをBの方へ少し回すと閉じられます．

● Xはスピードライトの同調用です．シャッタースピードとしては$^1/_{60}$秒ですが，実際にはスピードライトの閃光時間だけのごく短い露出に相当します．

● 目盛のセットはクリック ストップからはずれた位置をおさけください．

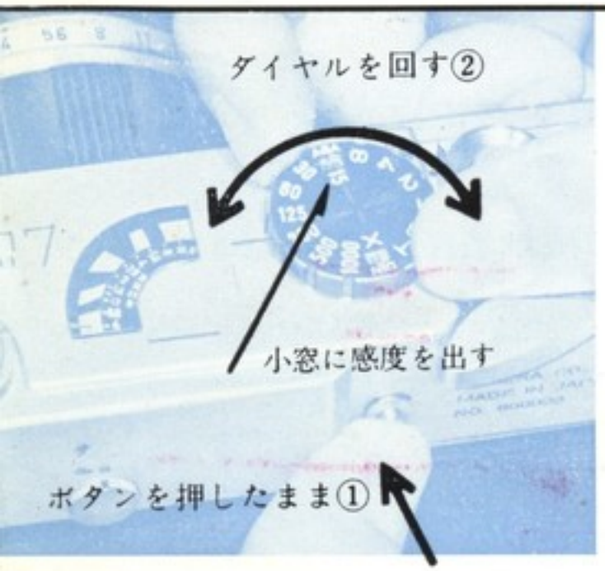
レンズの絞りリングを回して必要な目盛を指標に合わせます．これによって光量の調節や被写界深度（23頁参照）の調節が行われます．

● 絞り目盛と露出時間との比率はF2を基準として次表の通りです．

絞り値	0.95	1.2	1.4	1.8	2	3.5	4	5.6	8	11	16	22
露出比率	1/4	1/3	1/2	1/1.25	1	3	4	8	16	32	64	128

● 絞りのリングは目盛の中間にセットしてもさしつかえありません．

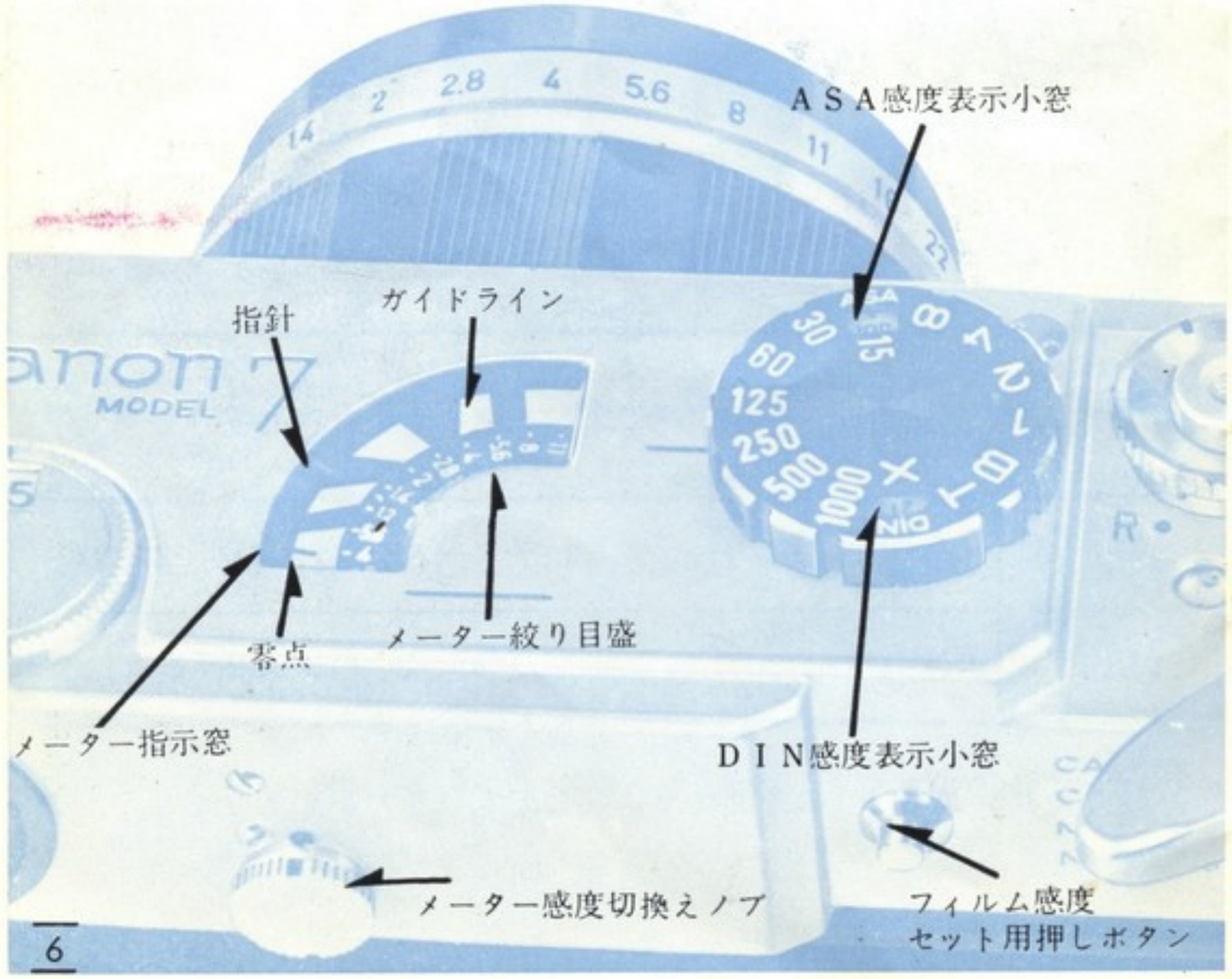
露出メーターの使い方



そ　の　準　備

使用フィルムの感度を小窓に出します．それにはカメラ背部のボタンを押しこんだままシャッター　ダイヤルを回してやります．SSフィルムなら100，Sなら50をASA小窓に出します．

メーター感度をきめておきましょう．
通常の明るい戸外では，感度切換えノブの黒点を指標に合わせます．
室内または，日没前の戸外では黄橙点を合わせておきます．



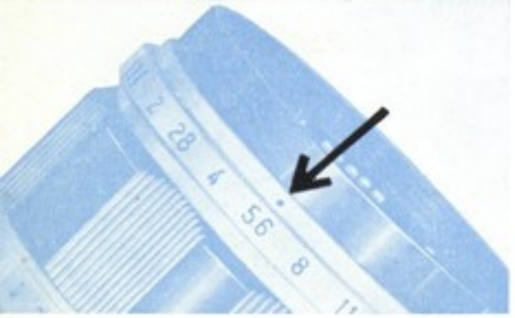
●フィルム感度がASA目盛の中間に相当する場合には，中間位置を小窓に出しておきます．

●露出メーターの感度は高低2段切換式です．

●感度切換えノブの黒点は低感度用（明るい被写体用）でASA 100のフィルムに対してLV12～19（F2 1/1000秒～F22 1/1000秒．）黄橙点は高感度用（暗い被写体用）でLV6～13（F1.4 1/30秒～F22 1/15秒．）

●感度切換えノブが黒点に合っているときはメーター指示窓の絞り目盛は白色数字を用い，おなじく黄橙点に合っているときは黄橙色数字を使います．

露出のきめ方①



希望するレンズの絞り目盛をセットします.

被写体にカメラを向けると指針の位置がきまります.

シャッター　ダイヤルを回して，レンズの絞りと同じ数字を指針のあるガイドラインに合わせます.

この場合，感度切換えノブが黒点なら白色目盛，黄橙点なら黄橙色目盛を用います.

シャッター　ダイヤルはクリックストップの位置にセットしてください.

●露出のきめ方には2通りの方法があります．いずれを用いてもさしつかえありません.

●明るさを測定するときメーター受光窓を手でふさがないようご注意ください.

露出のきめ方②

希望のシャッタースピードをセットして，カメラを被写体に向けます.

指針の指示する絞り目盛を読みとり

レンズの絞りをセットします.

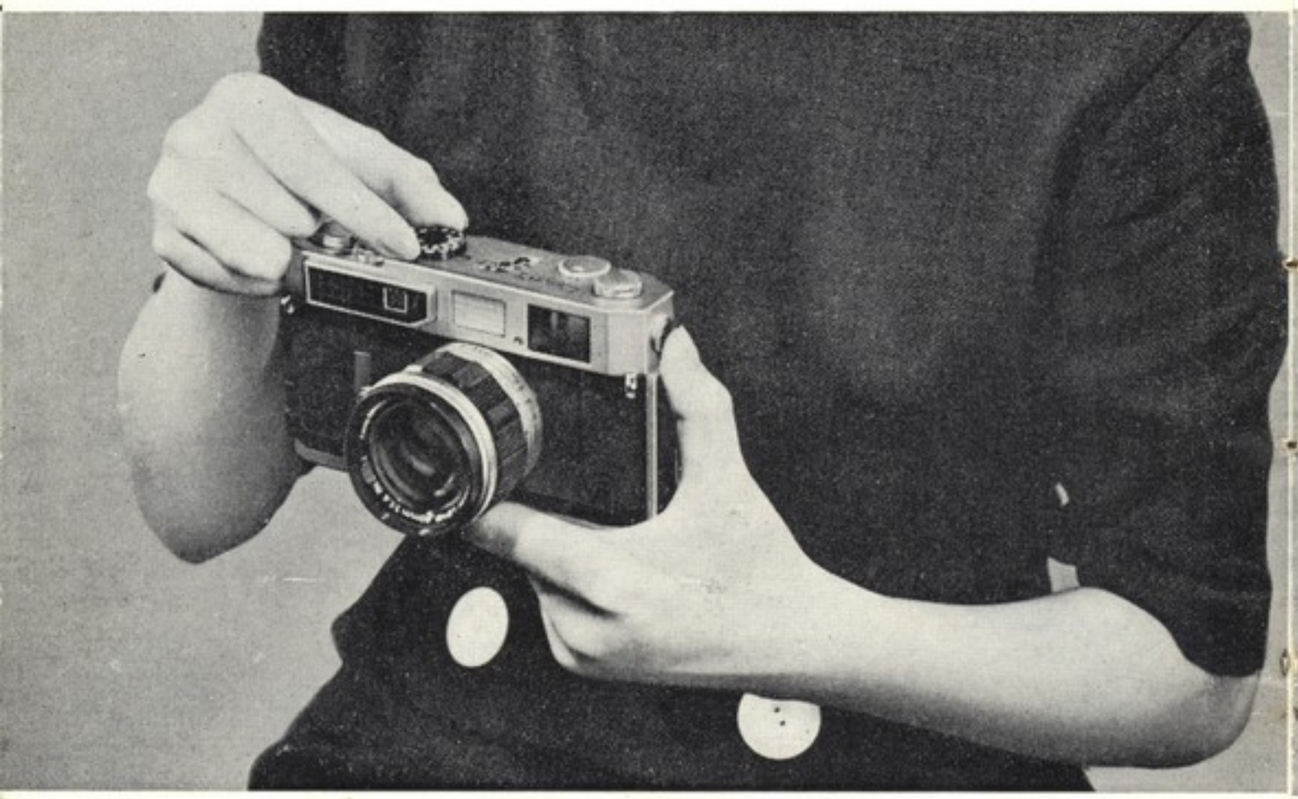
●白色目盛と，黄橙色目盛の選び方は①の場合と同じです.

●B, T, X のシャッタースピードを用いないでください.

●明るさの条件が変って，被写体が明るすぎて指針がふり切れたときや暗くて動かぬときには再びメーター感度を切換えてください.

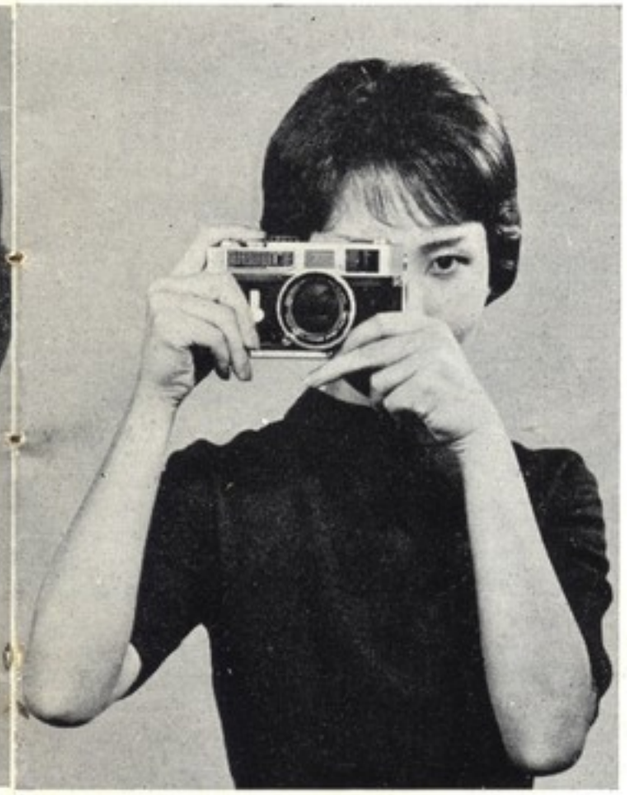
●絞り目盛の読みとりはガイドラインに沿って行います.

シャッターダイヤルは目盛の中間が使えませんが，絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから，露出を厳格に考える場合はシャッター速度を先にきめ，これに応じて絞りを加減することが最も合理的となります.



青空をバックにするときのように背景が特に明るい場合，受光窓を上に向けすぎますと明るく感じすぎてかんじんな主被写体が露出不足となるおそれがありますからご注意ください．
なお指針を読み取るさいにもカメラを上に向けないご配慮が必要です．
逆光の撮影で，バックあるいは主被写体のいずれに重点をおくかあらかじめ結果を予測しての測定が大切です．
一本のフィルム全部がムラなく均一なネガに仕上がれば理想的です．そのためには最初から使用現像液をきめ無理な露出をしないようにおすすめします．

キヤノンの構え方

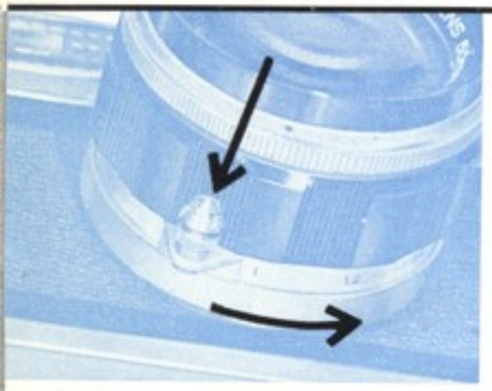


撮影の際，カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるのに最も大切なことです．
カメラは縦位置または横位置に応じて図のいずれかのように持ち，ファインダーを覗いてピント合わせをし，更に撮影範囲をきめた後静かにシャッターを切ります．その際特に次のことが大切です．

1. 両手は努めて深くカメラを握り込むこと．
2. カメラは頬あるいは額に当てて固定すること．
3. 横位置のときは両ひじ，縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること．

● シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります．
● 撮影は三脚とレリーズを使う方が確実です．1/30 秒よりもおそいシャッターを切るときは特にこの点にご注意ください．

ピントの調節



被写体にピントを合わせるには，

はじめにフォーカシングノブを押しレンズの無限遠止めをはずしながら，フォーカシングリングを回します．

レンジ・ビューファインダーの接眼窓を覗くと

ファインダー視野の中央にある四辺形内に2つの像が見えます．

フォーカシングリングを回して2つの像が重なったときピントが合い，はなれたときピントがはずれます．

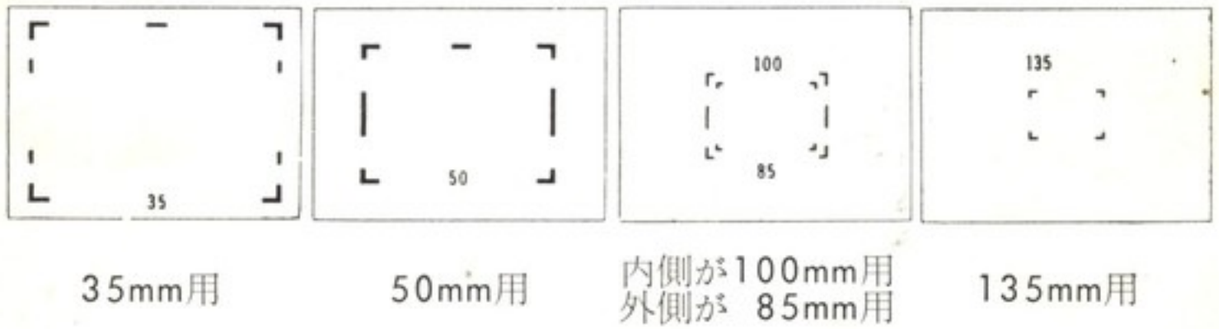
●50mm F1.2 の無限遠止めのはずし方．

●無限遠止めのないレンズはそのまま回します．

ファインダー画界

ファインダー内に見える数字と線枠は，レンズの焦点距離とその写る範囲を示し，これのセットはセレクターによって行われます．

セレクターを回して使用レンズの焦点距離を小窓に出します．



35mm用　50mm用　内側が100mm用 外側が 85mm用　135mm用

パララックスの自動矯正

ファインダーの線枠はピント合わせに連動して，撮影レンズに対するパララックスが自動的に矯正されます．

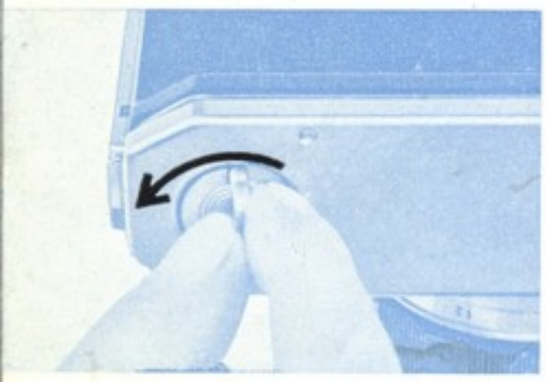
●25mm および 28mm レンズの場合は別にアクセサリーカプラーおよび専用ファインダーが必要です．

●線枠の示す画界はカラースライドの画面寸法に合わせてあります．

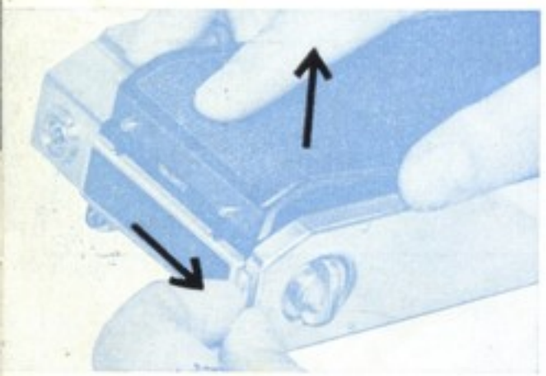
●レンジ・ビューファインダー接眼窓には標準視度の接眼レンズが取付けてありますが，これで見にくい方のために交換レンズが用意されています．

フィルムの装填

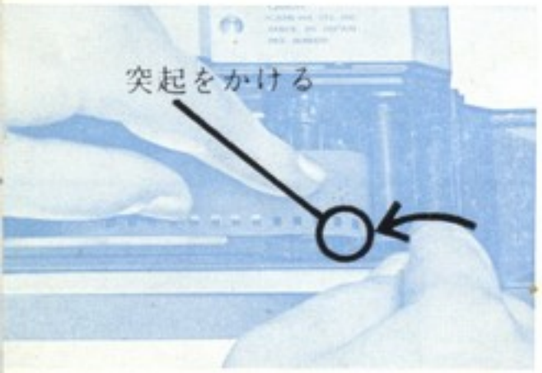
フィルムは市販の35mm日中装填用パトローネ（カートリッジ）入りフィルムでも，キヤノン専用マガジンVに入れたものでも同様に用いられます．



1. 底部のマガジン開閉つまみを引き起して左回しに半回転します．

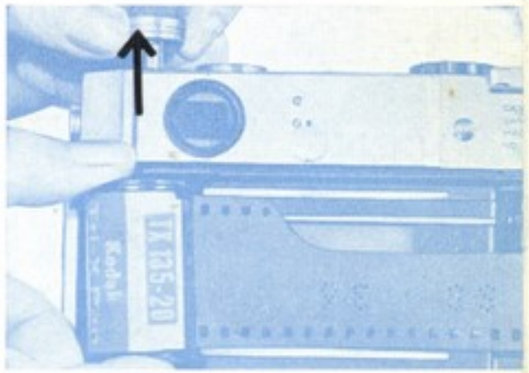


2. 裏蓋止め金を引き，裏蓋に指をかけてあけます．

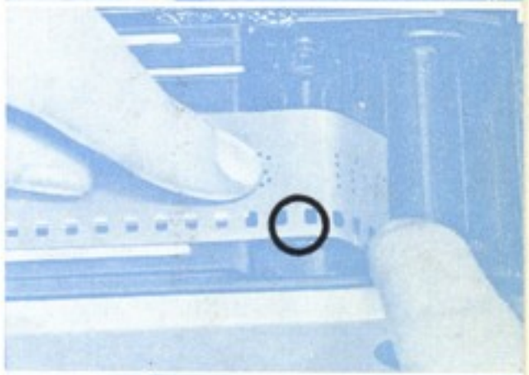


3. フィルムは乳剤面を向うむきにして，その端を巻取りスプールの溝に十分差しこみ，スプールのつばを矢印の方向に少し回しながら溝ぎわの突起をフィルムの孔にかけます．

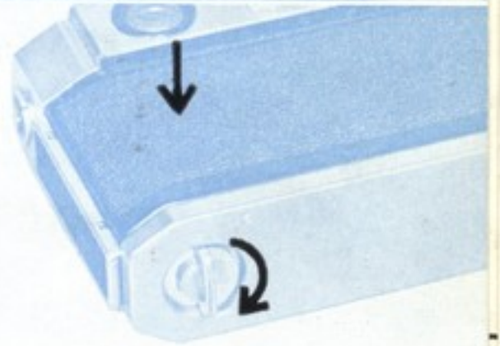
4. 巻戻しノブを十分に引上げ，パトローネまたはマガジンをカメラ内に収めたのち，再び巻戻しノブの軸を元のように押しこみます．



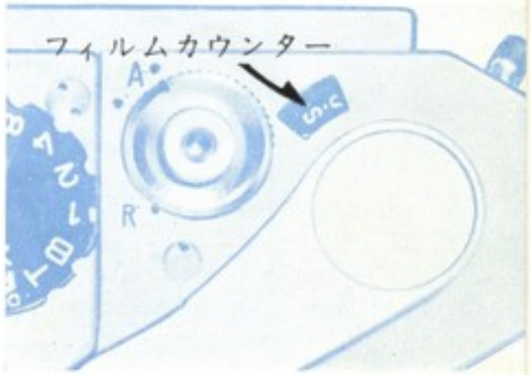
5. その際フィルムの孔をスプロケットの歯に完全にかけ，またフィルムにたるみがあれば巻戻しクランクを矢印方向に回してたるみを取っておきます．



6. 裏蓋を閉じます．最後にマガジン開閉つまみを右回しに回して元通りに収めます．裏蓋を閉じる前にマガジン開閉つまみを回してはなりません．



7. レンズキャップをかぶせたまま，巻上げの操作をして二回空写しをします．フィルム枚数表示はフィルム装填のはじめS（スタート）の位置に復帰していますが，二回の空写しによって0の表示が出ます．
次に巻上げをすると一枚目の撮影準備ができます．



フィルムの感度表示

フィルムの装塡をしたときは，忘れずにその感度をシャッター ダイヤルの小窓に表示しておきます．フィルムの感度表示は6頁のフィルム感度の合わせ方の項をご参照ください．

フィルム装塡良否の確かめ方

巻上げをするごとに，巻戻しクランクが回ります．このことでフィルムが正しく巻取られているか否かがわかりますから，巻上げの際は，いつもこれを見るようにお勧めします．もし回らなければフィルムの端がスプールから抜けだしているか，フィルムの孔がスプロケットからはずれていることになります．その場合は17頁のフィルム巻戻しの要領で，フィルムを一旦取出して装塡し直さなければなりません．

カメラやレンズの紛失，盗難に際しては警察関係の届け出のほか，最寄りのカメラ材料店にご相談ください．店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し，品物の発見にご協力申し上げることができます．
カメラやレンズの番号はいつでもわかるようなお心づかいをお勧めいたします．

フィルムの巻戻し

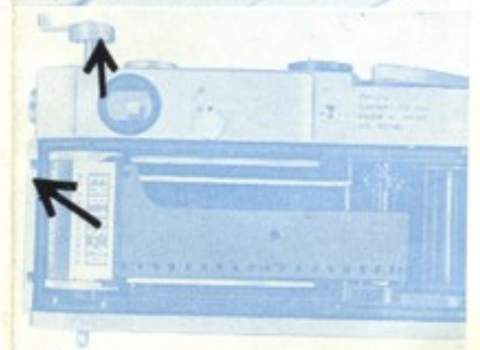
フィルムが終りになると巻上げができなくなりますから，次の順序によってフィルムを元のパトローネまたはマガジンに巻戻します．

1. 巻戻しリングをAからRの位置へ回します．

2. 巻戻しクランクを起して矢印の方向に回します．
巻戻しクランクを回している間フィルム巻戻し指標の動きに注意し，その円形運動が止ったならば直ぐ巻戻し操作を中止します．
- 巻戻しの際はレンズキャップをしてください．

3. 巻戻しリングをAに戻します．

4. 裏蓋開閉つまみを左回しに回した後，裏蓋止め金を引いて裏蓋を開きます．



5. 巻戻しクランクを十分に引きあげた後，パトローネまたはマガジンをカメラから取出します．
- フィルムが終りになっているのに，無理にその巻上げをすると，巻戻しができなくなって，暗室でフィルムを取出さなければならなくなりますからご注意ください．

フラッシュ同調

フラッシュ ユニット直結ソケットにキヤノン フラッシュ ユニット V を接続しますと，下表の各シャッター速度でフラッシュ同調撮影をすることができます．スピードライト（ストロボフラッシュ）の接続もできます．

閃光のタイムラグはシャッターダイヤルのセットの際自動的に調節されます．

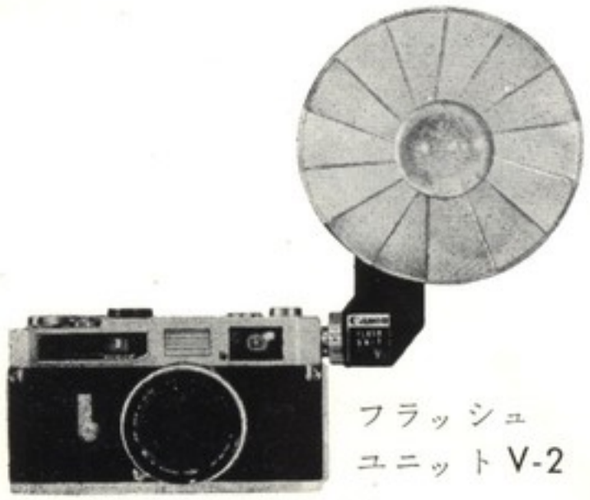
フラッシュ撮影の場合もレンズフードが必要です．

フラッシュバルブ	同調範囲													
	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B	T	X
FP 級	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	●
M 級	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	●
F 級	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●
スピードライト	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○

●印の部分は使用できません．

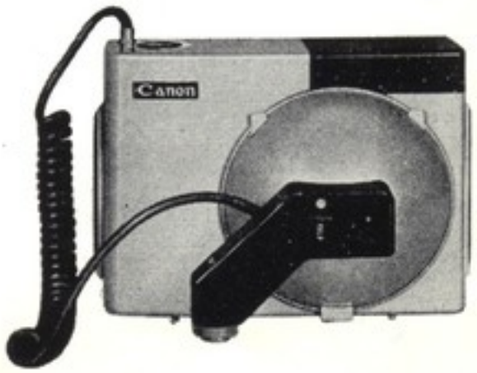
"X" 接点のシャッターとしての露出時間は約 1/60 秒です．

大型のM級バルブの場合には 1/250 および 1/125 秒にも使用することができます．

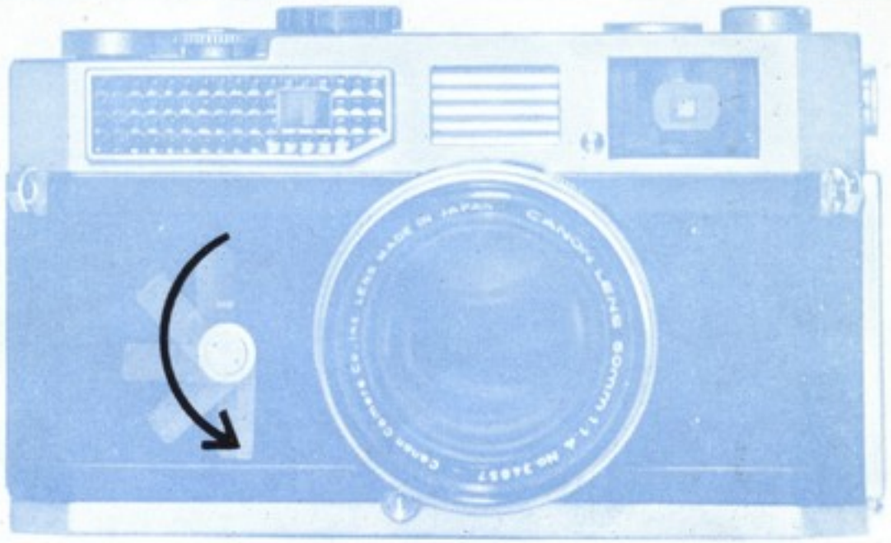


フラッシュ
ユニット V-2

スピードライトV



セルフタイマー



シャッターを巻上げ

セルフタイマーレバーを矢印方向に回し

シャッターボタンを押します．

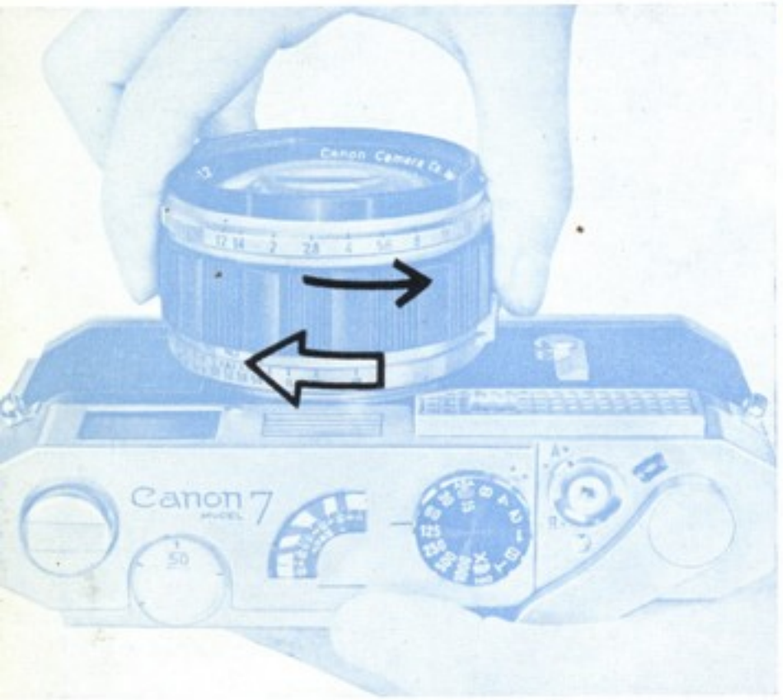
約10秒後にシャッターが作用します．

● セルフタイマーレバーは $^{2}/_{3}$ 以上巻上げること．

● 巻上げ位置によって時限調節ができます．

● シャッターの巻上げは後から行ってもさしつかえありません．

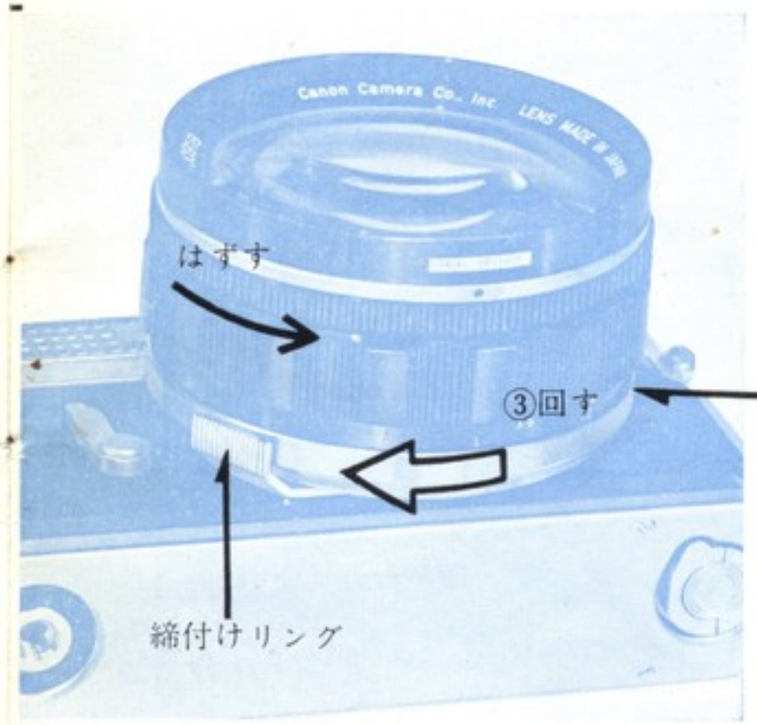
レンズの特別な取扱い

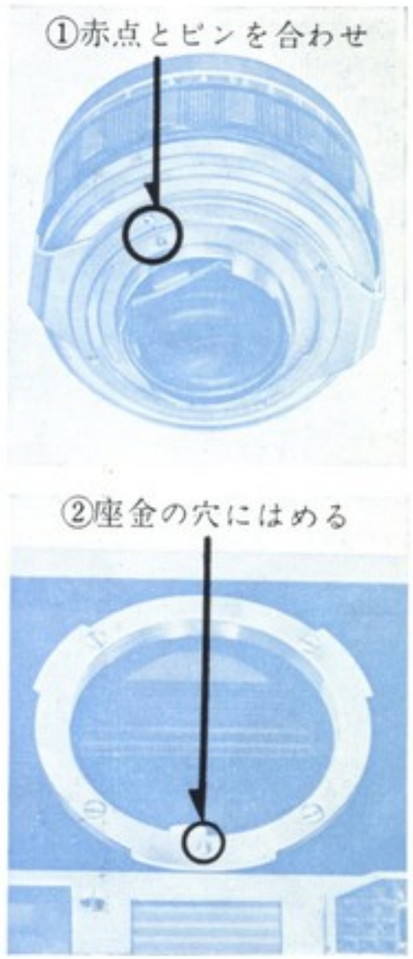


レンズの交換

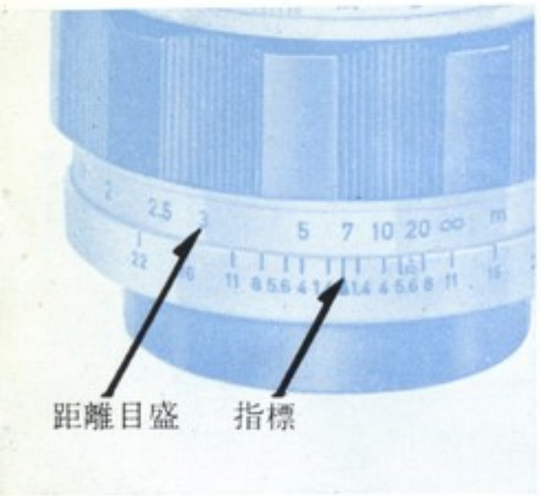
ねじマウントのレンズ（50mm F 0.95 以外のレンズ）をカメラからはずすには，レンズのなるべくもとの部分をつかんで左回し（矢底印方向）に回します．レンズを取付けるには，レンズの底蓋を取去った後，レンズが傾かないように，ていねいにねじを合わせながら，右回し（大矢印方向）に静かに回して座金にねじこみます．レンズ交換の際 85mm 以上の長焦点レンズではレンズの距離指標を至近距離に合わせておいて．その付けはずしをします．

レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません．別のレンズをすぐ取付けられるように用意しておいて，なるべく光線の弱い場所，もしなければ自分の身体の陰などで，手早く交換取付けを行います．





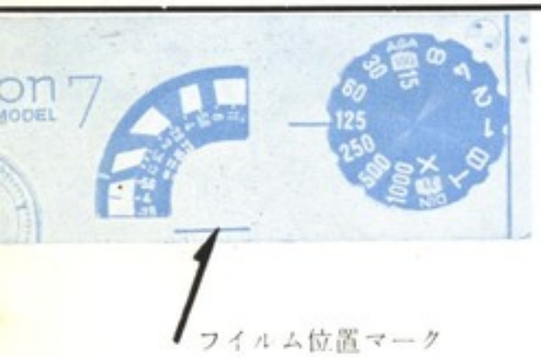
バヨネットマウントのレンズ（50mm F 0.95）をカメラからはずすには，締付けリングを左回し（小矢印方向）に回してバヨネットをはずし，レンズを取出します．取付けには締付けリングの赤点を鏡胴後面のピンに合わせ，そのピンをレンズ座金の受け穴にはめながら押し付け，締付けリングを右回し（大矢印方向）に回して固定します．



距離目盛

はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです．普通の撮影では必ずしも必要ありませんが，被写界深度を知る場合や赤外撮影などに必要を生じます．

距離目盛は一桁数字の距離ではその文字の中心，2桁数字では2つの文字の中間，3桁数字では中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置になっています．



● 実測してピントを合わせる場合には，フィルム位置マークから測り，その距離をレンズの目盛にうつします．

カメラを海水や泥水の中に落したときは，できるだけ早く清水で洗い，レンズを取りはずしてきれいに拭いたのち直ちに修理にお出しください．グズグズしていると腐蝕のため回復不能になります．

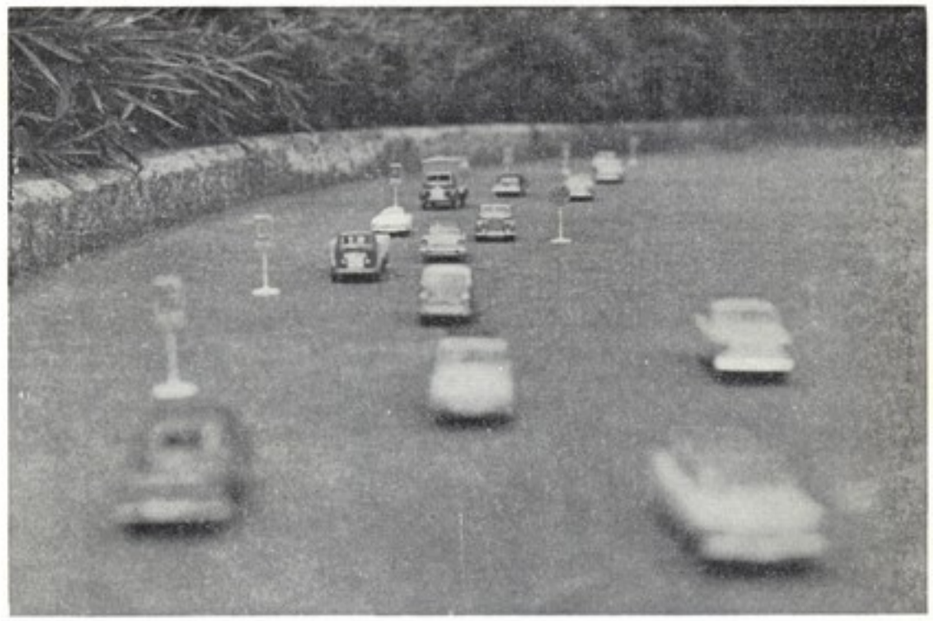
被写界深度目盛

一つの被写体にピントを合わせたとき，その前後でなお鮮明に写る範囲を示すもので，距離目盛と関連しています．これを使用するには，たとえば 50mm レンズで 7m の距離にある被写体にピントを合わせたとき F5.6 の絞りを使うとすれば，距離指標の両側で一対の 5.6 の目盛の示す距離すなわち約 4.7m と約 14m とを読みとります．

この間にあるものは鮮明に写るわけです．同様にして F11 に絞れば 3.5m から ∞ まで鮮明に写ることがわかります．

被写界深度はレンズを絞るほど，また撮影距離が遠いほど深くなり，逆の場合ほど浅くなるものです．

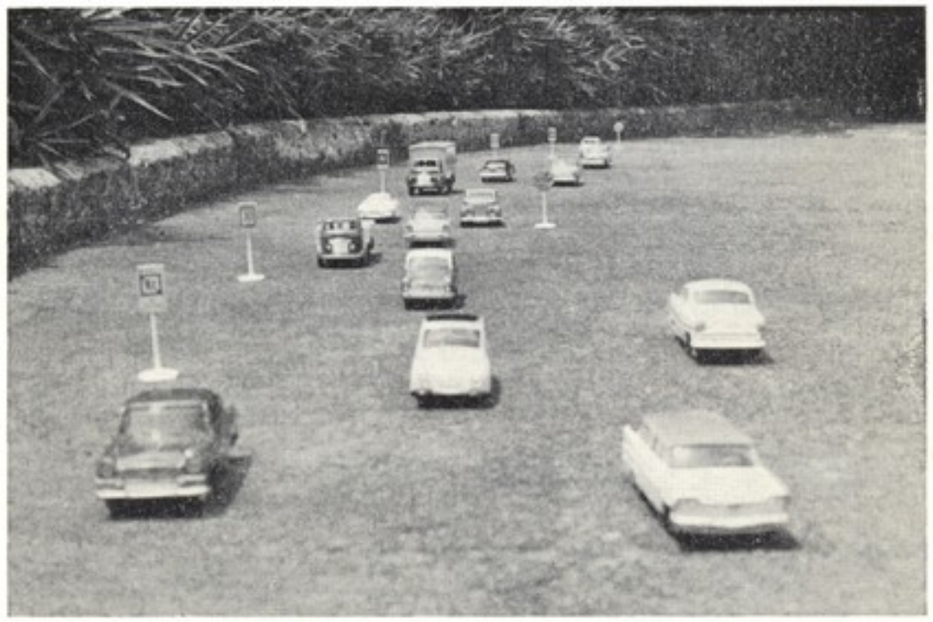
50mm レンズ



深度 約4.7m—14m

F5.6

ピント合わせ 7m

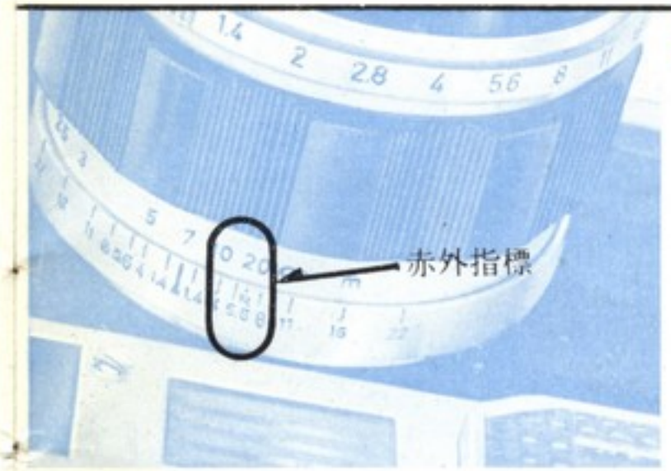


50mm レンズ

深度 約3.5m—∞

F11

ピント合わせ 7m



赤外指標（赤外マーク）R

赤外撮影のときは，ピント位置が普通撮影より多少ずれますから修正しなければなりません．

普通にピントを合わせ
その距離目盛を赤外指標 R に合わせます．

つまりピントを合わせて距離目盛が 20 だったとすればこの 20 の目盛を R の位置までずらせばよいわけです．

● 赤外指標は 8000Å 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター（たとえば コダック IR 135 フィルムとラッテン 87 フィルター，またはJIS の IR 77～78 フィルター）を用いる場合を標準にして目盛ってあります．赤末部を使用する場合，たとえばプラス X あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 または SR 59～60 程度の赤色フィルターを添用する際などには，修正移動量を 1/3 ぐらいとするのが適当です．

キヤノン専用マガジンとフィルムの填め方

① 図のようにマガジンを持って突起を指で矢印の方向に押すとロックがはずれて内筒が少し回ります．内筒と外筒との窓口が合ったとき内筒を引きだします．

② フィルムの乳剤面（巻きぐせの内側）を向うむきにして，先端をスプールの軸溝に差しこみます．溝は幅の広い方が入口です．フィルムは軸内の戻り止めの作用で戻らなくなるはずですから，少し動かして確かめてください．

③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻きこみ，これを内筒に収めます．乳剤面に指先を触れてはなりません．またゆるく巻いて，後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます．

④ 窓口を合わせて内筒を外筒にはめ込みます．

⑤ 矢印の方向に内筒を回します．

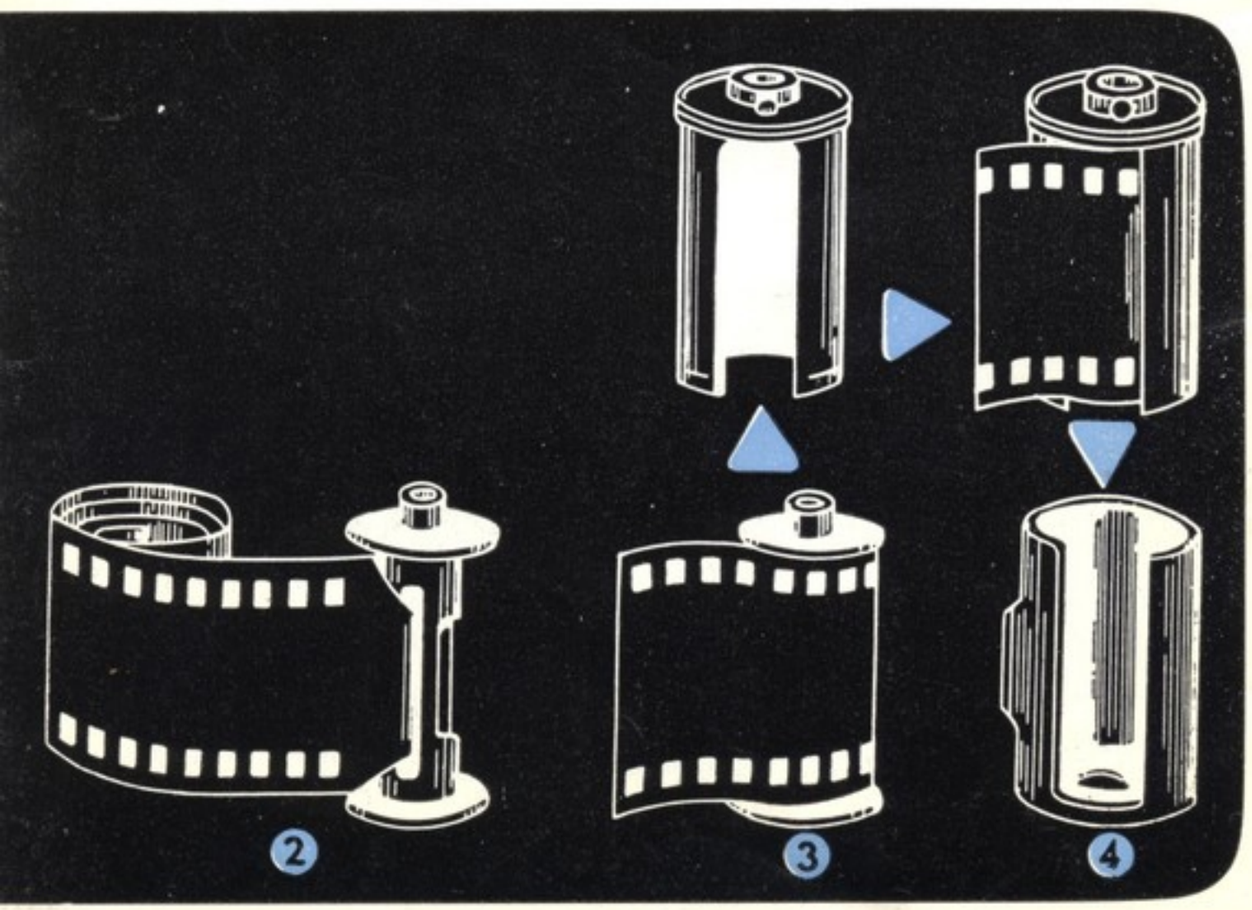
⑥ **パチン**と音がして安全装置がかかります．

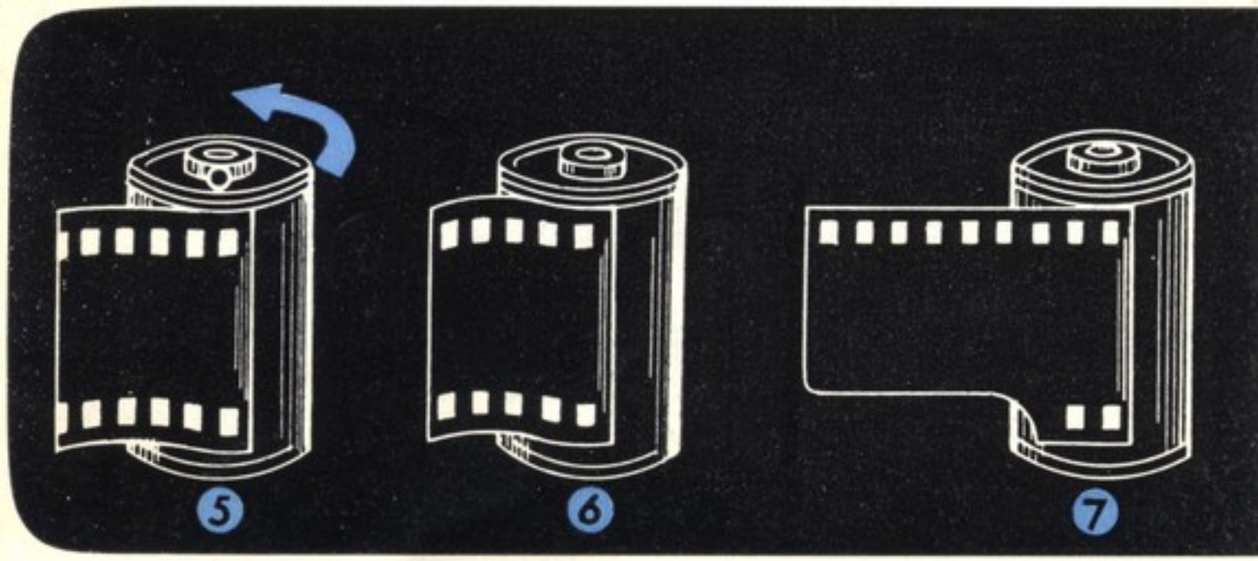
⑦ 長巻きフィルムのときはフィルムの端を図のように切り取ります．

■フィルムの取扱いは安全灯下か暗黒下で行わねばなりません．

■フィルムを入れたマガジンはカメラに装塡するとき以外は必ずマガジンケースに収めておいてください．

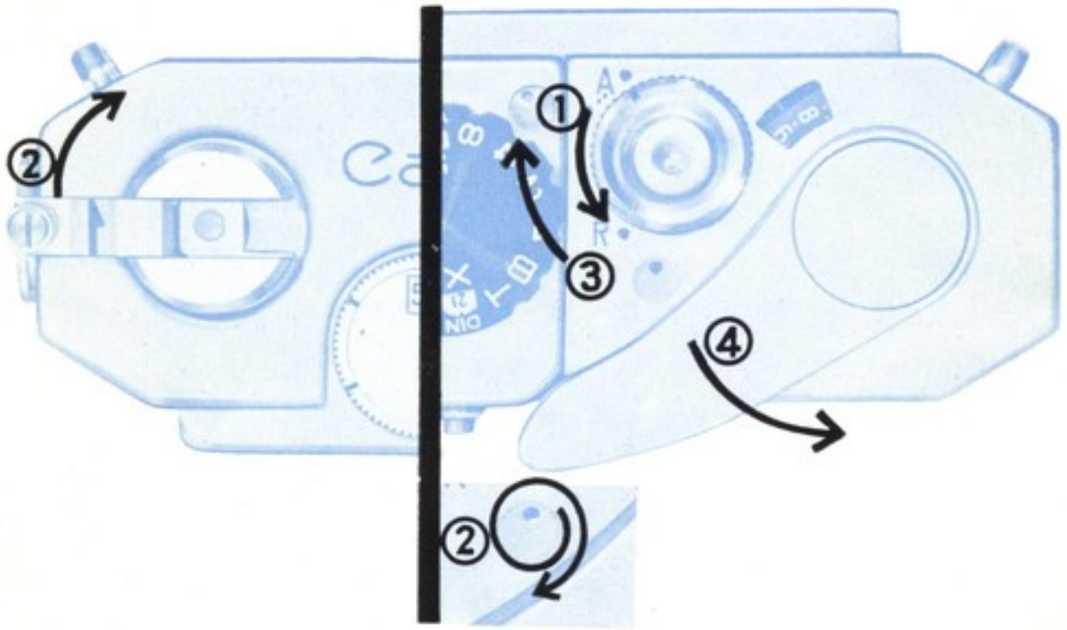
■スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると，フィルムにシミが生じたりマガジンを錆させたりしますから，綺麗に拭いて使用することが大切です．





二　重　露　出

キヤノンは二重露出防止になっていますが，必要の場合次のようにすると二重露出ができます．



① まず巻戻しリングを巻戻しの場合と同様にRの位置に回します．

② フィルム巻戻し指標の動きに注意しながら，巻戻しクランクを右回しに回し巻戻し，指標が約1回転半したところで巻戻しを止めます．

③ 巻戻しリングをAの位置に戻します．

④ 次にレバーを普通に動かしてシャッターの巻上げをすれば前のフィルム面に二重に撮影することができます．レバーは念のため一回以上止まるまで動かしてください．この操作をくり返せば同一フィルム面上に何度でも露出することができます．また同様に巻戻し指標を2回半回転させれば2枚前のフィルム面から二重撮影ができます．
ただしフィルムカウンターは巻上げするたびに進みます．

レンズキャップをかぶせたまま誤ってシャッターを切った場合も，この方法でシャッターの巻上げをすれば，フィルムを無駄にしないで済みます．

カメラの保存手入れ

カメラを保存するのに高温と湿気は禁物です．箪笥など密閉した中に長くおくのも感心しません．特に梅雨期などはなるべく乾いた外気に触れさせるのが望ましいことです．写真暗室や化学薬品の多い室におくのもよろしくありません．万全をはかるならば，缶とかデシケータ（乾燥器）とかにシリカゲルやアドソールなどの乾燥剤とともに入れておくのがよいことです．

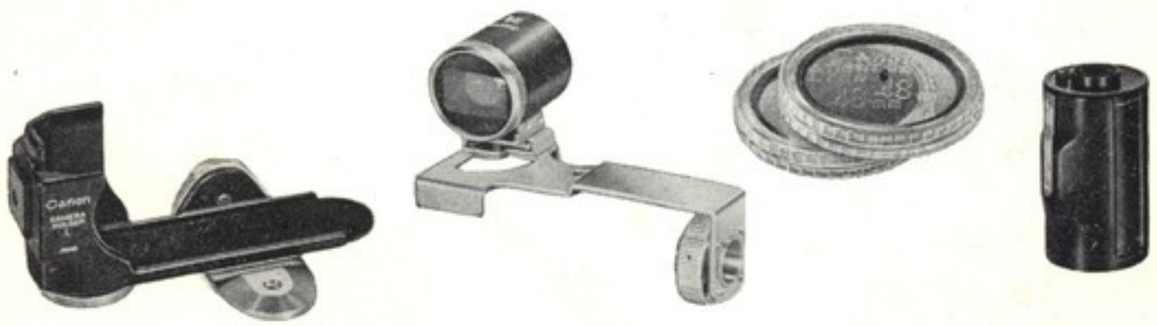
カメラの手入れ　野外で使ったカメラは塵埃が付き易く，また雨の日や海辺で使ったときは，気付かないうちに水滴や塩分を受け勝ちなので，放置するとシミや錆を生じ，またレンズの焼けや腐蝕の原因になります．このような際は，柔い刷毛で埃を払い，更に乾いた柔い布で丁寧に拭きます．油類は使用しない方が安全です．汗の指で触れるのも禁物です．

レンズの手入れ　レンズにはなるべく手を触れないのが安全で，柔い刷毛か羽で軽く埃を払う程度に止めたいのですが，やむを得ないときは，洗いさらした柔い清潔な綿布を棒に細く巻き，先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを小量まぜても可）を付け，レンズ面の中心より外側に，渦巻きを描くようにして軽く静かに拭きます．拭くそばからアルコールが拭いていく程度が良好です．強く拭いたり，埃の付いているままで拭くとかえってキズを付けますから注意が大切です．

● キヤノン7型にはどのキヤノンレンズでも使用できますが50mmF 3.5，50mm F 1.9 のような沈胴式レンズを取付けた場合は速写ケースに納めるときも常に鏡胴を引出したままにしておいてください．

交換レンズとアクセサリー

キヤノン7型は，鮮鋭なキヤノンレンズ 25mm 超広角から 1000 mm 極長焦点まで自由に駆使できるほか，F 1 の壁を破って話題を呼んだ新設計 50mm F 0.95 超大口径レンズの威力が加わって一層撮影の分野をひろげています．つまりカメラファンにとって7型のもつ表現力は比類ない魅力であり，35mm の最高機能を期待できるものです．7型のご愛用には必ず広角もしくは望遠レンズを写真撮影の伴侶におもとめください．
また直ちに必要とするフィルター，カメラホルダー，フラッシュなどのアクセサリー類もきわめて豊富にキヤノン製品の一員として網羅されておりますゆえ，必要に応じてお選びいただくことができます．

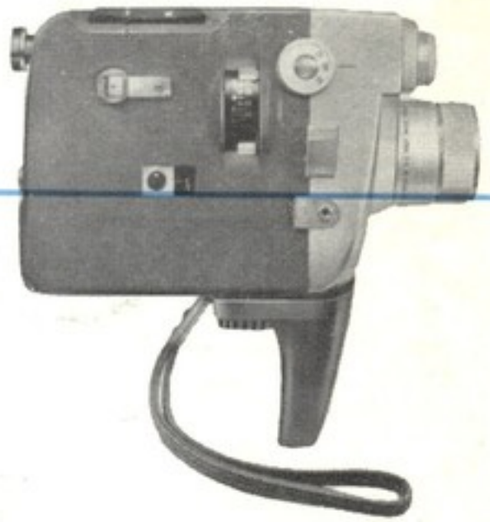


カメラホルダー　ファインダーとアクセサリーカプラー　フイルター　マガジンV

キヤノンフレックス
RM

キヤノネット

キヤノンデミ



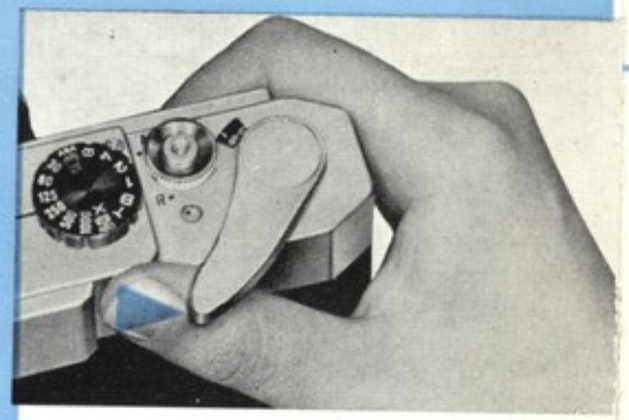
キヤノンモーターズーム 8
EEE

キヤノンズーム8-3

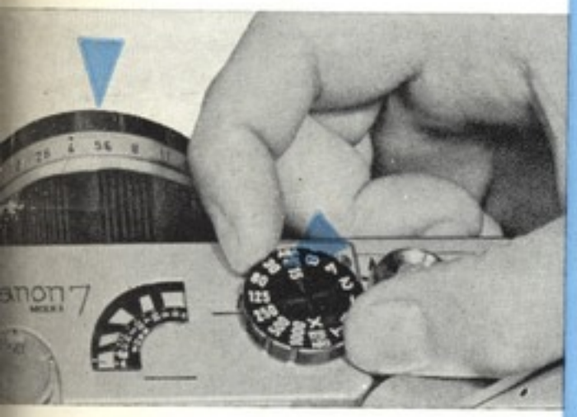
キヤノン製品のご紹介

撮影の手順

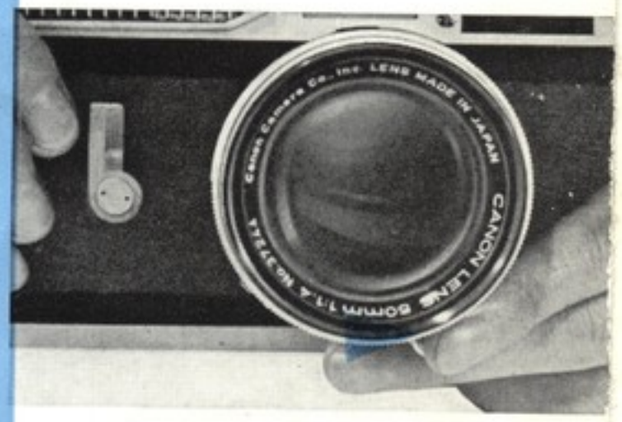
1 レンズキャップをはずす



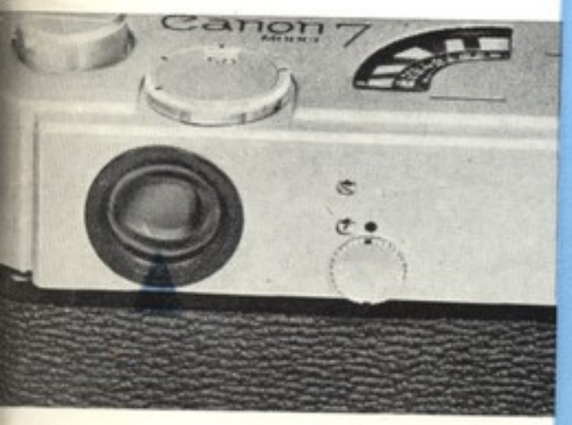
2 巻上げをする



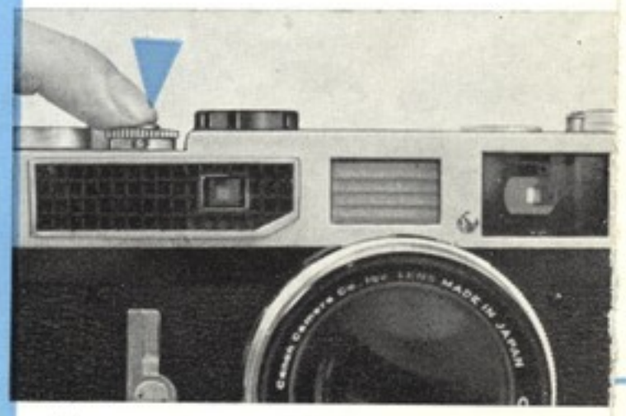
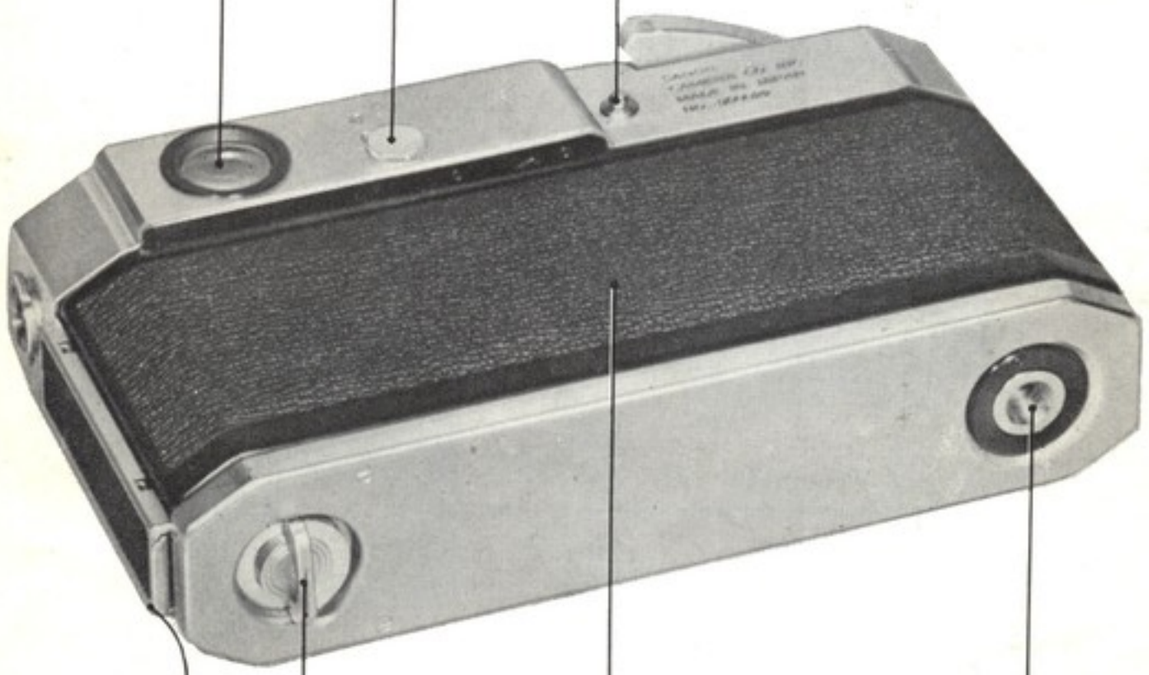
3 メーターによりシャッターと絞りをきめる



4 被写体にピントを合わせる



5 構図をきめる



6 シャッターボタンを押す